

やんばる地域の国立公園を考える座談会 意見の概要

[日時・場所]

大宜味村：平成20年2月1日（金）道の駅おおぎみ2階会議室

東 村：平成20年2月4日（月）東村役場大会議室

国頭村：平成20年2月5日（火）道の駅ゆいゆい国頭多目的ホール

※時間は3会場ともに18：00～20：00

[出席者]

環境省

安田 直人 環境省那覇自然環境事務所統括自然保護企画官

山本 麻衣 環境省那覇自然環境事務所国立公園企画官

三宅 雄士 環境省やんばる自然保護官事務所自然保護官

住民参加者

国頭村28名・大宜味村22名・東村13名

[配布資料]

- ・「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方（骨子案）」
- ・「日本の国立公園」（パンフレット）

環境省より国立公園制度の仕組み、検討会での基本的な考え方等を説明。その後、地域住民との意見交換を行った。主な意見を以下に示す。

●管理運営・地域振興について

- ・「持続的な資源の活用」「地域振興」「開発や産業の見直し」の具体的なイメージを示すべき。本当に地域の人間とコミットして活動できるのか疑問。（国頭村）
- ・林業への具体的な影響を示すべき。林業に変わる「マングース捕獲事業」などの代替案が必要。具体的なイメージがないと林業従事者の事業転換は難しい。（国頭村）
- ・国立公園のガイドとして成立するほど需要があるのか。また、林道、歩道の草刈り作業は大変な労力と予想される。（大宜味村）
- ・地域住民の誇りとなる国立公園を目指してほしい。（大宜味村）
- ・利用者の増加により、やんばるの自然が荒廃するおそれがある。（大宜味村・東村）
- ・管理運営・地域振興等のためにある程度の予算が必要。自然再生にかかる予算を望む。（大宜味村）
- ・国立公園は、国が設定するルールの中で、行政と地元関係者が連携して活動できることが魅力。（東村）

●指定プロセス・説明会について

- ・地域住民がないがしろにされている印象を受ける。やんばるでは今までの国立公園指定とは異なる指定プロセスが必要。（国頭村）
- ・沖縄海岸国定公園指定の際、ある地主の意志が尊重されなかった経緯がある。地域の意志を尊重することが重要。（国頭村）

- ・ やんばるの自然価値について、地域住民すべてが理解しているわけではない。まず、その価値について説明する必要がある。地域住民の環境に関する意識のレベルアップを図る必要がある。(国頭村・大宜味村・東村)
- ・ 地域へ(専門家による)科学的データ、科学的調査のノウハウをフィードバックしてほしい。地域住民と専門家による合同の環境モニタリング調査の実施などを望む。(東村)
- ・ 県民は、国に対する不信感がある。国立公園ありきではなく、国立公園に指定した場合と、しなかった場合の将来イメージを示し、地域住民の不安を取り除く対応を望む。(東村)
- ・ 国立公園指定の根拠を明確に示すとともに、指定後の管理運営もしっかり示すことが必要。(東村)

●海岸域について

- ・ 沖縄海岸国立公園を国立公園として編入してほしい。(国頭村)
- ・ やんばる地域は森だけではない。海も大切に考えてほしい。(国頭村・大宜味村)

●基地問題について

- ・ 北部演習場は、地域住民にも野生生物にも影響がある。指定の際に、北部演習場の是非について働きかけてほしい。(国頭村・大宜味村)
- ・ 上空で米軍機が飛べない規制をかけてほしい。やんばるでは他の国立公園にない指定、規制方法(法改正)があるべきではないか。(国頭村)
- ・ 戦闘機が墜落して、やんばるの森が延焼することも考えられる。ポーランドでは、自国の戦闘機でも飛べないエリア(コアゾーン)がある。ゾーニングは、そのようなことも想定して設定すべき。(国頭村)

●その他

- ・ ごみの不法投棄問題も考えてほしい。(国頭村・大宜味村)
- ・ 国立公園指定の早期実現を望む。(大宜味村・東村)
- ・ 国立公園化のデメリットも明確に示すべき。(東村)
- ・ 地域、関係団体との調整には、中立(当事者以外)の立場が必要。(東村)